

## Ⅲ 研究活動

### 1 研究活動概要

本学では、教育研究上の特徴として「デザイン学部と看護学部の連携」ならびに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」ならびに「産業・文化の振興、まちづくりや、市民の健康保持・増進への貢献により大きな価値を生み出す『知と創造』の拠点形成」を掲げている。

平成21年度は、この特徴と目的を念頭に置き、デザイン学部教員34名、看護学部教員40名、計74名が研究活動を行った。

「デザイン学部と看護学部の連携」の観点からは、両学部の教員が協働しながらそれぞれの専門知識と技術を活かし、「小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討」や「IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作」などを通じて、保健・医療・福祉等のテーマで学部間共同研究を推進した。

「幅広いネットワーク」の観点からは、医療福祉機関との連携により地域課題の解決を目指して、「看護学部と病院の人材育成連携活動の評価研究に向けて－相互影響の記述－」や、「夕張市における在宅ケア従事者間の連携促進を意図した教育的介入」などの研究を遂行した。また、「地域における通信・放送融合型モバイルコンテンツサービスに関する共同研究」などを通じて、産業界等との連携により研究を行った。

「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」の観点からは、「デザイナーの職能資格認証研究」のほか、「看護学教育における模擬患者（SP；Simulated Patient）養成プログラムの開発と検証－SPの達成感に焦点をあてて－」、「看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発」、「客観的臨床能力試験（OSCE）による卒業時看護技術到達度評価に向けた教授法の検証」などにおいて、看護技術向上教育を目的とした研究に取り組んだ。

「産業・文化の振興、まちづくりや、市民の健康保持・増進への貢献により大きな価値を生み出す『知と創造』の拠点形成」の観点からは、まちづくりの推進に貢献することを目的として、「札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究」、「シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究」、「南区ユニバーサルデザイン・ウォーキングマップ及びその活用に関する研究」、「第14回札幌市都市景観賞」PRに関する研究」や札幌市円山動物園に関わる受託研究などを実施した。

このほか、福祉機器等のユニバーサルデザイン研究、地域景観再生に係る研究、看護現場における環境改善や従事者支援に係る研究など、多様なテーマとアプローチによる研究に取り組んだ。